

5. 水稲の地力作りの調節

標準以外の場合は、下表のように加減してください。（10アール当り）

▼カルテック栽培

No	投入有機物・残留物	ラクトバチルス	硫安 ^{※1}	田畑の大将(赤)	摘要	
1	稲ワラ 全量 スキ込み	(標準)			[標準] 稲ワラ 500kg (1反分)	
2	稲ワラ 持ち出し 何も投入しない		10kg		高刈りする。米ヌカや野草等、何か有機物を入れましょう。	
3	稲ワラ+籾殻 全量 スキ込み	400g	注A 13kg (~15kg)	20kg	籾殻200kg (1反分) に対し硫安 3kgを追加。 チッソ不足気味の田圃では 5kg追加とする。計15kg。	
4	稲ワラ+籾殻+米ヌカ 全量 スキ込み	米以外 全部還元 推奨	10kg		米ヌカ50kg (1反分) で 硫安 2kg (~3kg) を減肥。籾殻の分の追加と 差引きゼロ。	
5	(麦作後) 麦ワラ 全量 スキ込み		15kg (尿素なら8kg)		田植え後20日頃軽く干す。 分ゲツ肥は不要の場合が多い。	
6	レンゲ後				チッソ過多に注意。	
7	野菜後、大豆後				分ゲツ肥も不要の場合が多い。	
8	休耕後の田圃		×	30kg	雑草スキ込み。	
9	基盤整備直後の田圃		注C	注D	ぜひ ワラ、籾殻等の有機物を入れましょう。注GH	
10	有機物の投入(どれか)	600g	注B	30kg	堆肥は品質に要注意。 未分解の木質(ノコズ)はチッソ飢餓を起すので不可。注F	
11						牛フン 500kg迄
12						豚フン 100kg迄
13						鶏フン 100kg迄
14						魚 粕 100kg 注F
14	菜種粕 100kg				地力増強で増収効果 必ず秋に投入する事 年内に2回耕起する	
15	米ヌカ 150kg			米ヌカ50kg (1反分) 当り硫安 2kg (~3kg) を減肥。		
16	植物質の追加		(10kg)		(硫安は元の稲ワラ還元分のみ)	
17	稲ワラ(他の田圃から) カヤ類		(10kg) + 3kg (~5kg)	20kg	500kg (1反分) に対し硫安3kg (~5kg) を追加。	
18	籾殻(他の田圃から)	その田圃の稲ワラ還元分の硫安10kgに追加する。注A	(10kg) + 3kg (~5kg)		籾殻200kg (1反分) に対し硫安3kg (~5kg) を追加。	

米作事例編

左表の注意事項

- 注【A】 **ラクトバチルス**は硫酸と混合して散布し、乾燥しないうちに土中にスキ込んで下さい。なるべく 秋が効果的です。
- 【B】 硫酸を使わない場合、**ラクトバチルス**は、散布に適当な量(5kgほど)の米ヌカなどで増量して散布して下さい。
- 【C】 左記の硫酸(チッソ)は、ワラ等を土中醗酵させ、地力を作るもので、元肥ではありません。元肥は通常通りでもよいのですが、施肥量を、 $2/3$ ($\sim 1/2$)とする事をお勧めします。『カルテック栽培』なら原則として元肥はゼロです。
- 【D】 **田畑の大将<赤>**は、秋の**ラクトバチルス**と同時投入でも、春～田植え前の施用でも、ほぼ近い効果です。
- 【E】 左記以外の有機物・肥料類を投入したい場合は、その成分・副成分・CN比に十分な配慮をして下さい。
- 【F】 チッソや有機物が多い場合(No.5～18)、湛水後のガスわきに注意して、田植え後20日頃、軽く落水して空気を当てる。また、分ゲツ肥は施さない方がよいことが多くなるので、留意して下さい。
- 【G】 年内に2度ほど、粗くすいて、土表面のワラも土中に埋め込んで下さい。ただし、土を細かく砕きすぎないように注意。
- 【H】 珪カル・ようりん等の強アルカリ資材や石灰窒素は、殺菌作用があるので、使わないで下さい。